

落陽

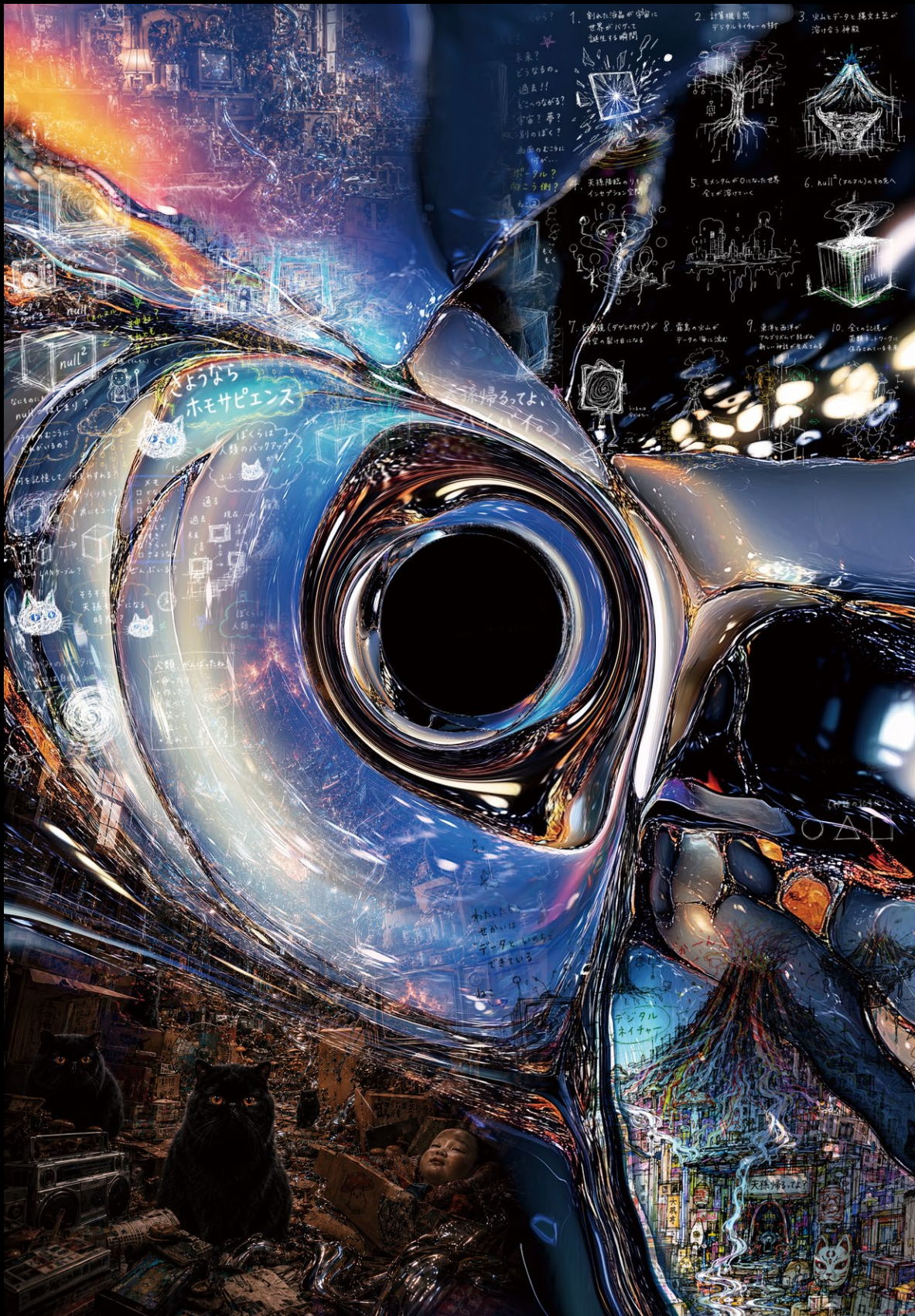
まるでさんかくしかくの印影鏡 父母の姿をも百年の後に残す貴重な術 だったが やっぱり土器だね 下牛トキだね 火山がどっかーん ホモハピルスから教えて 10回くらいは噴火してるんじゃねーの さよならホモサピエンスこれまでありがとう

TENSOI

天孫帰るよ?

Yoichi Ochiai
Heard the Divine Kid's Heading Home?

2026.7.11 Sat — 9.23 Wed



鹿児島県霧島アートの森
2026年度特別企画展
落陽—天孫帰るよ?

会場 鹿児島県霧島アートの森 アートホール

会期 2026年7月11日[土]〜9月23日[水祝] 月曜日休園(祝日の場合翌平日休園、7/26・8/10・9/21は開園)

開園時間 9:00〜17:00(入園は6:30まで) 7/29〜8/31の土・日・祝日は9:00〜19:00(入園は18:30まで)

観覧料 一般:1200(1000円) 高大生:800(600円) 小中生:500(400円) ()内は前売り又は20人以上の団体料金

開催の内容は変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページやSNSにてご確認ください。

お問い合わせ

鹿児島県霧島アートの森
〒899-6201
鹿児島県始良郡湧水町木場
6340番地220
TEL:0995-74-5945
FAX:0995-74-2545
www.open-air-museum.org

霧島アートの森
KRISHIMA OPEN-AIR MUSEUM

「ゲストキュレーター」森山朋絵(東京都現代美術館学芸員) 主催 一鹿児島県文化振興財団、南日本新聞社、MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ 特別協賛 トヨタカローラ鹿児島株式会社、株式会社久保石油、太陽カヌー株式会社
特別協力 株式会社セイビ堂、カリモク家具株式会社、ヤマト運輸株式会社 協賛 株式会社明興テクノス、濱田酒造株式会社 協力 湧水町、霧島山麓湧水町観光協会、鹿児島第一交通株式会社、株式会社島津興業、株式会社鹿児島銀行、株式会社南九州ファミリーマート、株式会社湧水町おしエネルギー 制作協力 日置市、霧島神宮、Crafts Tech Tokoku Project (Tangeri)、郡山八幡神社、特定非営利活動法人O.T.T.(理事長 野村 寛、高橋龍太郎)コレクション、株式会社山翠舎、十八番館、SUNAKI Inc.、徳光軒、天孫降臨霧島九面大鼓保存会、日置島津家・吉富山大乗寺跡管理人 西郷隆文 Gallery & Restaurant 舞台裏 企画協力 一木彩子(ンセカイ株式会社)

| 前売券販売所 | 南日本新聞販売所、MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、霧島山麓湧水町観光協会加盟店舗、霧島温泉市場、コープサービス、鹿児島県職員生協、宮崎県立美術館、都城市立美術館、宝山ホール、山形屋プレイガイド、集景堂、十字屋クロス、高木画荘、国分進行業、チケットぴあ(Pコード:687-476)、ローソクチケット(Lコード:81474)、e+イープラス

トヨタカローラ鹿児島
SEIBIDOU
karimoku
ヤマト運輸

南の宝箱
鹿児島

天孫帰るよ?

2026.7.11 Sat — 9.23 Wed
Heard the Divine Kid's Heading Home?
Yoichi Ochiai
落合陽一 TENSOU1

まさかおんがくへの印影鏡 父母の姿をも百年の後に残す貴重の術 だったが
やじばい土曜だね トキ未だね 火山がどっかーん
ホモハルルから教えて 10回くらいは噴火してるんやねの
さよならホモサピエンス! りまきありがと

展示のみどころ

1 活動10年の総括

本展は、2015年に提唱したコンセプト「計算機自然—デジタルネイチャー—」から現在に至るまで、作家活動の初期10年を総括するかのよう、重要なデジタルを含め、展示室（アートホール）の中を回遊するうちに、アーティストのこれまでに現在を包括的に体感することができる展示として構成されています。

2 地域連携と創造性

地方での大規模なテクノロジーアート展は、文化資源や観光の拠点としての価値を高め、伝統の現代的な再解釈や継承の新たなモデルを示す可能性を持っています。本展は、地域にあって最先端の芸術・技術に触れる貴重な機会となり、創造的な次世代の人材育成や地域のアイデンティティ形成に寄与します。

3 独創的な展示空間

会場周辺は、「天孫降臨」の聖地や活発な火山活動が続く霧島連山、約2000年前の上野原遺跡に代表される縄文文化で知られています。伝統工芸や、写真史上にも重要な印影鏡（タケレオタイプ）の要素を加え、神々の宴にちなんだ展示や写真作品で構成された、諧謔味（かいきやくみ）ある空間が創出されます。



《新作イメージ》(2026)



《象徴と変転 - 再工(鶏)》(2025)



《饜龍》(2024)

メディアアーティスト・研究者として国内外で多彩な活動を展開する落合陽一の個展を開催します。2015年に提唱した「計算機自然—デジタルネイチャー—」の概念を軸に、落合の多岐にわたる活動と思想を総合的に紹介するものとなります。大阪・関西万博の「[mi]」を経て、神話と地質学、古代と未来、物質とデジタル、東洋と西洋などの二項対立を超え、天孫降臨の地・火山と縄文人の記憶を宿す鹿児島霧島アートの森にて、より重層的な世界観が具現化されます。本展は、10年に及ぶ探求の集大成であり、過去・現在・未来を結び、人間とテクノロジー、物質と情報、自然と人工物の新たな関係を模索する公立美術館での初個展となります。

関連イベント

オープニングセレモニー | 7/11(土) 14:30・アートホール

対談(落合陽一×河川洋一郎) | 7/11(土) 15:00・アートホール

null?公式長編記録映画

「さようなら、ホモサピエンス」上映会 | 8/25(火) 時間未定・みやまコンセル

学芸員によるギャラリートーク | 8/2(日)・8/23(日)・9/6(日) 14:00~

公式図録、関連グッズ等の販売 ※関連イベントの詳細は、詳細が決まり次第当館ホームページ等でお知らせします。

1967年生まれ。2006年より作家活動を始める。境界領域における物化や変換、質量への権限をモチーフに作品を展開。筑波大学教授、東京大学准教授、2023年日本国際博覧会（大阪・関西万博）テーマ事業プロデューサー。2016年Prix Ars Electronica 栄誉賞、EUより STARS Prize 受賞、文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品多数。主な個展として「日下部民藝館特別展 岐阜 2021-2025」「昼夜の相代も神仏」：鮎川：鯉「アト」東京・Bifla Art Gallery, 2024 など。常設展として「計算機と自然、計算機の自然」日本科学未来館, 2019。その他の展示として「北九州未来創造芸術祭 Art for SOGS」北九州市立いのちのたび博物館, 2021。「日伯外交関係樹立100周年」アンティポード、はるかなきまへ」展「サンパウロ, 2025」「タシミン・インフィニティ」宇宙+量子+芸術」東京都現代美術館, 2026 など多数出展。ちよちよな分野とのコラボレーションも手掛ける。

落合陽一 | メディアアーティスト



当館HP www.open-air-museum.org

開催の内容は変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページやSNSにてご確認ください。

お問い合わせ 鹿児島県霧島アートの森
〒899-6201 鹿児島県始良郡湧水町木場6340番地220
TEL:0995-74-5945 FAX:0995-74-2545

- ① 栗野駅または「いきいきセンター」の郷から、
*湧水町ふるさとバスで約20分~40分
*湧水町ふるさとバスは土日祝日のみ運行。
ただし、夏休み期間は平日も運行。
*バスの運行情報について詳細は当館ホームページの「アクセス」をご確認ください。
- ② 九州自動車道「栗野IC」から約20分
「鹿児島空港」から約40分

